

経営学分野

【学士力の考察】（下線部分を修正）

企業や組織体の存在意義は、経済的な価値のみならず社会的な価値を創出し、豊かな社会の実現に寄与することを目指すことである。社会がグローバル化・多様化する中での経営においては、多様な価値観を理解し、相反する利害関係を調整することで解決案を提示・実行できる人材が望まれる。

社会経験が乏しい学生を対象にした経営学教育では、内部資源の調達・有効活用の仕組み、組織を支えるステークホルダーとの関係、経営に関する理論と現実を理解させた上で、組織活動が外部環境に及ぼすプラスの効果とマイナスのリスクを考察させ、イノベティブな提案に取り組む姿勢の涵養が望まれる。

【到達目標 1】（到達目標、解説、コア・カリキュラムのイメージ、到達度、測定方法の下線部分を修正）

1 企業をはじめとする組織の社会的役割と責任の重要性について認識できる。

ここでは、豊かな社会を築いていくために企業や組織が持つべき役割や責任を考えるところから、企業をはじめとする組織の存在意義を理解させねばならない。例えば、社会を構成する株主、債権者、従業員、顧客、取引先、地域社会、行政機関などステークホルダーの利害にはどのようなものがあるかを理解し、社会的役割と責任に照らして組織活動を倫理的・多面的に考えられることを目指す。

【コア・カリキュラムのイメージ】

企業と社会、社会的責任（CSR）、ステークホルダー、コーポレートガバナンス、コンプライアンス、企業倫理、経営倫理、環境経営など

【到達度】

- ② 経営倫理やCSRなどについて、企業不祥事の事例や危機管理事例などを具体的に理解し説明できる。
- ③ 問題が発生した場合に自らどのような行動を選択するかを考えることができる。

【測定方法】

- ③ は、問題が発生した場合に自らどのような行動を選択するかを説明させることで確認する。